



年寄りを疎んじるな
「いつか行く道」
じゃけん!



若者を憂うな!
「いつか来た道」
じゃろう!



我が町シリーズ “住んで みんない 尾道”

「神明祭」とは毎年2月の第2日曜日を含む3日間伊勢神宮を祀る祭りの事を言います。この信仰が全国に広まったのは室町末期で三原もその頃の地方の港町として栄えつつあり、当時九つの町組が寄りあって始めたのが祭りの起りと言われています。三原城を築いた小早川隆景はこの祭りを大切なものとし、初市として周辺の特産物の集積を図り、瓶子一對を寄進し近郷より繰り出す人での様子を見てその年の富凶を考量されたとされています。そういう遺風は備後地域の春祭りのさきがけとして受け継がれ、大ダルマが飾られ、たこ焼き、たい焼き、ゲーム、おばけ屋敷、植木、ダルマなど数百の出店が軒を並べ大勢の人で賑わいます、是非お越しください。(尾道支部)

2019年 春 (第17号)

「広島県自衛隊家族会」の福合です。
「広島県隊友会」の皆さんには、日頃から数々のご支援・ご協力を頂いており、誠にありがとうございます。改めて厚く御礼を申し上げます。
さて、この度「隊友会」のご配慮により「隊友会広報紙」に投稿の機会を与えられました。折角の機会でもあり、「隊友会」と「自衛隊家族会」との関係について日頃の思いを素直に述べて見たいと思います。
最初に「自衛隊家族会」について簡単に紹介いたします。
「自衛隊家族会」は、「隊友会」と同じく公益社団法人の全国組織です。会員は、自衛隊員として勤務する子供を持つ全国津々浦々の親を中心とし、その数は約8万人です。
昭和41年に自衛隊員として勤務する子供の心の支えになりたいとの多くの親の熱い思いから「自衛隊父兄会」として発足いたしました。平成29年1月、会の更なる発展を期し「自衛隊家族会」と改名し今日に至る長い歴史を有します。
「広島県自衛隊家族会」は、会員数1700名です。「私たちは、隊員に最も身近な存在であることに誇りを持ち、力を合わせて自衛隊を支えます」との信条を高らかに掲げ、微力ではありますが自衛隊への協力・支援に汗を流しています。

「隊友会」も「自衛隊家族会」も自衛隊への協力・支援を組織の第一の目的としています。また、実際の個々の活動内容にも大きな相違は見られません。しかし両者の根本的な違いは、「その会員」にあります。「隊友会」の会員は、自衛隊勤務を長年経験し、自衛隊のすみから隅まで熟知した元自衛隊員(自衛官)により構成されています。軍事的知見と組織的行動力に溢れた組織です。
一方「自衛隊家族会」の会員は、その大部分が息子或いは娘の自衛隊への入隊・



「隊友会」との 協同作戦の推進

広島県自衛隊家族会会長 福谷 薫

我が国を巡る安全保障環境は、残念ながら今後更なる厳しさが予測されます。それに伴い自衛隊には、今以上の多くの任務が付与され、勤務も厳しさが増して行くものと思われ、自衛隊の一層の精強化は、我が国の安全保障にとり必然です。こうした環境の中にあつて「隊友会」「自衛隊家族会」等の自衛隊協力・支援組織に求められるものは、自衛隊員の後顧の憂いを減少させると共に、隊員が国民からの圧倒的な支持を肌で感じ取る事の出来る情勢を作り出す事です。その原動力が、「隊友会」と「自衛隊家族会」それぞれが持つ、「経験(知見)に裏付けされた強力な行動力」と、不動の「愛」の存在であると信じます。

入校を機に初めて自衛隊との接点を持つことになった、言わば自衛隊に關しては全くの素人から成り立っています。自衛隊の事は良くわからないが、しかし自分の子供達が隊員として元気に勤務し、立派に任務を遂行してくれることを心から願う、人としての本能とでも言うべき「親心・愛」を組織結成の核とする組織です。両者の特徴を一言で表せば、「隊友会」は、「知」の組織であり、「自衛隊家族会」は、「子」に対する「親の愛」の集団であると言えます。